

トピックス

※トピックス記事の中には、議会のホームページで詳しく掲載しているものもありますので、ぜひ、ご覧ください。

九州の自立を考える会 定例総会

2月9日、本県議会の全議員に加え、九州各県議会の議員、九州財界人等が広く会員となっている「九州の自立を考える会」(会長:藏内勇夫自民党県議団会長)の定例総会が福岡市内で開催されました。

開催にあたり、藏内会長は、「これまでの調査・研究の集大成として昨年10月に『九州の成長戦略に係る政策提言』を策定し、九州各県議会議長会や九州地方知事会などに加え、石破茂地方創生担当大臣に面会し、支援を要請しました。成長戦略は、地方が練り、行動し、地方の力で実現することが肝要であり、皆さまの絶大なご支援・ご協力を心からお願い申し上げます」と挨拶されました。



九州の自立を考える会 第8回広域行政セミナー

2月9日、定例総会に引き続き、第8回広域行政セミナーが開催され、加地邦雄議長が来賓として出席しました。

開催にあたり、藏内会長は、「昨年策定した『九州の成長戦略に係る政策提言』は、今日我が国が抱えている少子高齢化、成長率の低下等を乗り越えるために不可欠な戦略の提言であり、今年、この戦略を前に進める年にしてまいります」と挨拶されました。

加地議長は、「九州の自立を考える会の皆さまには、九州の活力ある発展のため、積極的に活動を展開いただき大変心強く感じています。昨年10月に発表された『九州の成長戦略に係る政策提言』では、九州、そして本県が成長していく上で欠かせない政策を提言されており、県議会も行政と力を合わせてその実現に取り組めます」と挨拶しました。

セミナーでは、一般社団法人九州経済連合会 麻生泰会長から「九州から日本を動かす」と題する講演がありました。「アベノミクスが動き始めた今、我々は大きなチャンスを手に入れています。今まさに九州から日本を動かすという心意気を持ち、九州を盛り上げていくための独自の取り組みを率先して考え、実行すること、いわば“とんがる”ことが必要です」などの話に、300名を超える参加者は熱心に聞き入っていました。



第66回結核予防全国大会

2月27日、秋篠宮妃殿下のご臨席を仰ぎ「第66回結核予防全国大会」が福岡市で開催され、加地邦雄議長が来賓として出席しました。

加地議長は、「秩父宮妃記念 結核予防功労賞」を受賞された方々に対しお祝いを申し上げるとともに「結核は完治できる病気となっているとはいえ、依然として患者が発生しており、今後も結核の制圧を目指し、対策の強化が求められています。全国の結核対策に携わる皆さま方が一堂に会され、当面する結核の問題について討議されますことは、誠に意義深く感じております。本大会が、実りある成果があることを確信するとともに、結核制圧へとつながっていくことを心からご期待申し上げます」と祝辞を述べました。



全国都道府県議会議長会定例総会

1月23日、第150回全国都道府県議会議長会定例総会が東京都で開催され、本県議会から岩元一儀副議長が出席しました。

本会は、「各都道府県議会間の連絡を保ち、地方自治の発展を図る」ことを目的に設立されました。地方が抱える切実な課題等について「全国議長会」として、また全国知事会等とともに「地方六団体」として政府に要請を行うほか、都道府県議会の向上発展のため、調査・研究等の活動を行っています。

総会では、本会の活動に係る平成27年度予算(案)が審議され、原案のとおり決定されました。このほか、「地方創生と地方行財政の課題について」と題し、総務省の大石利雄事務次官による講演が行われました。



九州各県議会議長会による農協改革についての要請

2月4日、九州各県議会議長会(会長:前川収熊本県議会議長)は、現在、政府・与党で検討が進められている農協改革について、政府等へ要請活動を行いました。

福岡県議会から加地邦雄議長が参加し、自由民主党の二階敏博総務会長、谷垣禎一幹事長、稲田朋美政調会長、あべ俊子農林水産副大臣(写真)並びに衛藤征士郎衆議院議員(九州国会議員の会会長)に対して、自主性を尊重する農協改革について、「地域JAが主体的に創意工夫を発揮し、農業者の所得向上と地域活性化に全力投球できるようにするため、現場の視点に立って農協改革を実施すること」など3項目について責任を持って対応されるよう要望しました。

これに対し、自民党三役からは、「これまで十分意見交換してまとめてきた。これからも、十分意見を聞いて農業者の視点に立って協議していく。農協改革は所得向上につながる。農業者のための改革となるようにしたい」との回答がありました。



「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産への要望

加地邦雄議長は、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録実現に向け、小川洋知事、谷井博美宗像市長、小山達生福津市長らとともに、2月20日に青柳正規文化庁長官、藤井基之文部科学副大臣、大家敏志参議院議員、菅義偉官房長官(写真)に対して、また、2月28日に麻生太郎副総理兼財務大臣に対して、要望活動を行いました。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録については、平成21年に暫定リストに掲載されて以来、行政、経済団体、市民代表などで構成する世界遺産推進会議において、登録に向けた取り組みを進めてきました。歴史的、文化的価値を世界に発信し、地域の活性化にも大きく寄与するものであり、平成29年度の世界遺産登録の実現に向け、平成27年度にユネスコへ推薦していただくよう要望を行いました。

